

## 2 研究の実際

## (6) 系統表を活用した授業実践

## ア 小学校での実践（第 6 学年 家庭科）

小学校では、第 6 学年の家庭科「くふうしよう おいしい食事」の題材で、食育と関連させた授業を実践しました。授業形態はティーム・ティーチング（以後、T T）で、T 1 は学級担任、T 2 は栄養教諭で行いました。

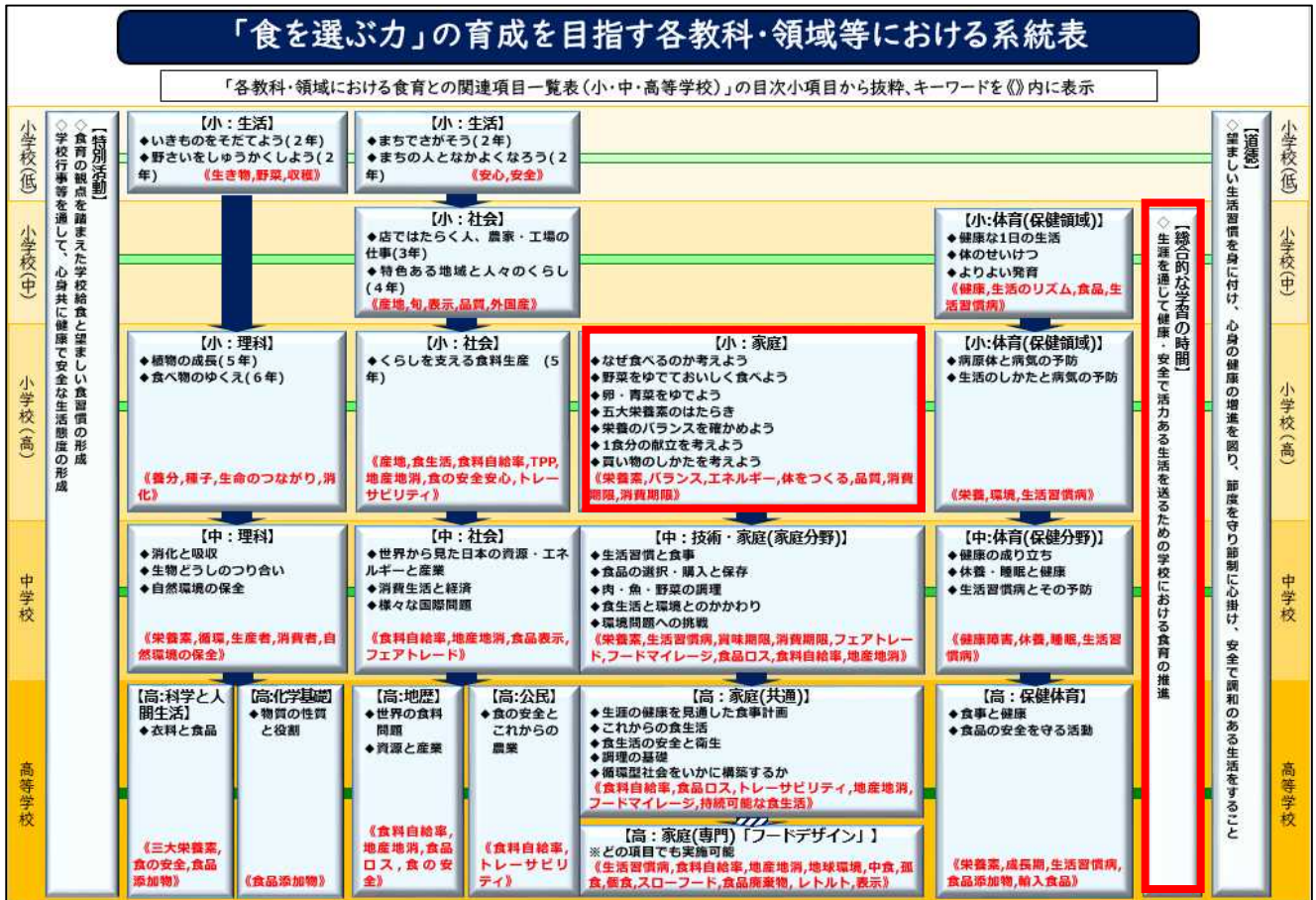
実態調査によると、小学校で食育を行う際に家庭科と連携して行っているという回答は全体の約 90% を超えていました。栄養教諭及び学校栄養職員の回答においても、家庭科との連携については、85% 以上の学校が行っていると回答しています。小学校においてよく連携が図られている家庭科での授業実践例を提案することが、学校での食育推進につながるのではないかと考えました。

「各教科・領域における食育との関連項目一覧表（小学校）」では、今回の授業実践は資料 1 の枠囲み部に該当します。

| 教科・領域       | 新学習指導要領                                    | 現行学習指導要領                   | 目次大項目            | 目次小項目  | キーワード  |
|-------------|--|----------------------------|------------------|--|--|
| 家庭<br>小 5、6 | B (3) ア (イ) 食品の栄養的な特徴と料理や食品の組み合わせ          | B (2) イ 食品の栄養的な特徴と組み合わせ    | くふうしようおいしい食事     | 栄養のバランスを確かめよう                                | 栄養のバランス<br>ゆでる いためる 焼く 卵<br>野菜 肉 魚の<br>加工品 青菜<br>じゃがいも |
|             | B (3) ア (ウ) 献立を構成する要素、献立作成                 | B (2) ウ 1 食分の献立            |                  | 1 食分のこんだてを考えよう<br>わたしたちの生活とお金<br>お金の使い方を考えよう | 主食 する物<br>飲み物 おかず<br>収入 支出 計画                          |
|             | C (1) ア (ア) 買物の仕組みや消費者の役割、物や金銭の大切さ、計画的な使い方 | D (1) ア 物や金銭の大切さ、計画的な使い方   | じょうずに使おう<br>お金と物 | 買い物のしかたを考えよう                                 | 情報 消費期限<br>賞味期限 品質                                     |
|             | C (1) ア (イ) 身近な物の選び方、買い方、情報の収集・整理          | D (1) イ 身近な物の選び方、買い方、適切な購入 |                  |  |  |

資料 1 「各教科・領域における食育との関連項目一覧表（小学校）」から抜粋したもの

系統表では、今回の授業実践は次頁資料 2 の枠囲み部に該当します。児童は 5 年時の総合的な学習の時間にみそ作りに取り組み、自分たちが作ったみそを使用して家庭科でみそ汁の調理実習を経験しています。総合的な学習の時間における学習内容や前学年での既習事項を踏まえた上で題材を設定し、担任と栄養教諭との連携を図って取り組んだ家庭科での授業実践です。



資料2 「食を選ぶ力」の育成を目指す各教科・領域等における系統表

1 題材名 くふうしよう おいしい食事(第6学年) 内容B(2)、内容D(1)(2)

2 題材について

本題材は、小学校学習指導要領解説家庭編のB「日常の食事と調理の基礎」の(2)「栄養を考えた食事」のウ「1食分の献立」と、D「身近な消費生活と環境」の(1)「物や金銭の使い方と買物」と(2)「環境に配慮した生活の工夫」を関連させて構成したものである。この題材では、これまでの学習で身に付けてきた日常食についての基礎的・基本的な知識を活用し、健康などの視点から、栄養のバランスを考え、3つの食品グループのそろった1食分の献立を考えることができるようにすることをねらいとする。また、調理で使う材料を購入する場面を設定し、物の選び方や買い方の学習を基に、目的に合ったものを選んで適切に購入できるようにする。本時は、5年時に総合的な学習の時間で取り扱ったみそを題材にし、「自分の家庭に合う」みそを選ばせる。児童にとって身近な食品を選択させることで、実践へと結び付きやすくなると考える。値段や量だけでなく、原材料や産地、簡便さなどの様々な視点に気付かせ、自分ならどの視点に注目し、食品を選択するかを考えさせる。




食育のねらいは、正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性について自ら判断できる能力を身に付けさせることである。

3 本時の目標

栄養や安全、地産地消や価格などの情報を基に、自分の家に合うみそを選択することができ、自分の考えを適切に表現している。

【創意工夫】

4 本時の展開

| 学 習 活 動   | 教師の働き掛け (○)、児童の発言 (・)、評価【】   |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
|---|--|----------|------|------------|--------|----------|------|--------|------|---------|------|
| <p>1 みそのよさを知り、本時のめあてをつかむ。</p>      | <p>○ご飯とみそ汁、それに合うおかず作りについて学習し、家庭で実際に調理することを伝えた。本時はその際に使うみそを選ぶために学習するという見通しをもたせた。昨年度、総合的な学習の時間に自分たちで手作りしたみそを思い出させ、みその栄養素やその働き、みそが出来上がるまでの過程を振り返らせた。(T 1)</p>   |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
| <p>自分の家に合うみそを選ぼう！</p>   |  |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
| <p>2 5種類のみその中から、自分ならどれを選ぶか考える。</p> <p>① 国産大豆みそ<br/>② 佐賀県産大豆みそ<br/>③ だし入りみそ<br/>④ 減塩みそ<br/>⑤ 手作りみそ (自分たちで作った物)</p>   | <p>○実物を提示しながら簡単な説明とともにみそを一種類ずつ提示し、自分の家に合うみそを考えさせた。(T 2)</p>   |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
| <p>3 選ぶための情報として何が足りないかを考える。</p>  | <p>○みその色やパッケージだけで選ぶことができるかを確認した。(T 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・値段が分からないと選べない。</li> <li>・品質が知りたい。</li> <li>・どんな材料が入っているのかを知りたい。</li> </ul> <p>○1キログラム当たりの価格を提示した。(T 2)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>① 国産大豆みそ</td> <td style="text-align: right;">500円</td> </tr> <tr> <td>② 佐賀県産大豆みそ</td> <td style="text-align: right;">1,000円</td> </tr> <tr> <td>③ だし入りみそ</td> <td style="text-align: right;">250円</td> </tr> <tr> <td>④ 減塩みそ</td> <td style="text-align: right;">700円</td> </tr> <tr> <td>⑤ 手作りみそ</td> <td style="text-align: right;">400円</td> </tr> </table> <p>○原材料や産地についての説明をした。(T 2)</p> <p>○原材料について分からないところがないか確認した。(T 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビタミンB2</li> <li>・遺伝子組み換えでない</li> <li>・タンパク加水分解物</li> </ul> | ① 国産大豆みそ | 500円 | ② 佐賀県産大豆みそ | 1,000円 | ③ だし入りみそ | 250円 | ④ 減塩みそ | 700円 | ⑤ 手作りみそ | 400円 |
| ① 国産大豆みそ  | 500円   |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
| ② 佐賀県産大豆みそ  | 1,000円   |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
| ③ だし入りみそ  | 250円   |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
| ④ 減塩みそ  | 700円   |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
| ⑤ 手作りみそ   | 400円   |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |
| <p>4 選んだ理由を記入し、班の中で意見交流をする。</p>   | <p>○選ぶ際の視点を広げるために班で意見交流をさせた。(T 1)</p>  |          |      |            |        |          |      |        |      |         |      |



5 みその選び方について、教師の説明を聞く。

A) 家庭の立場から

保護者への事前アンケートの結果を提示する。

B) 栄養教諭の立場から

6 5種類のみその中から、自分の家に合うみそを考える。

7 今後、商品を選択するときに意識したいことをまとめる。

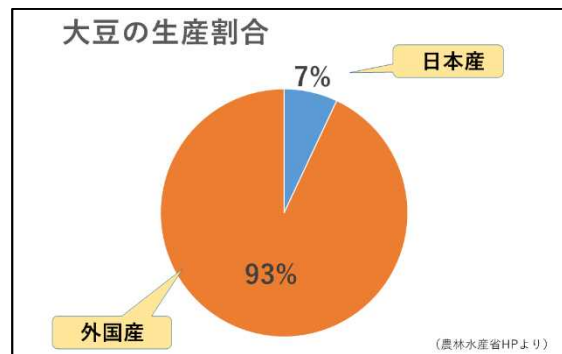
8 次時の見通しをもつ。

- ・①は値段もちょうどよくて原材料にいろいろ使っていないから。
- ・②は佐賀県産で安心して食べられるから。
- ・③は手軽で安いから。
- ・④は減塩で健康によさそうだから。
- ・⑤は自分たちで作ったから安心できる。

○それぞれの立場で、いろいろな観点を持ち、食品を選んでいることを知らせた。(T 1、T 2)

A) 家族の健康、家計など

B) 地産地消、佐賀県の大豆生産量(食料自給率)について具体的に説明した。



○給食には②のみそを使用していることを伝えた。

(T 2)

○自分の家族構成や実態を踏まえながら、自分の家に合うみそを選ばせた。(T 1)

選んだ理由をワークシートに記入させることで、どのような視点で選んだのかが把握できるようにした。

**栄養や安全、地産地消や価格などの情報を基に、自分の家に合うみそを選択することができ、自分の考えを適切に表現している。【創意工夫】**

○みそだけでなく、他の食品でも同じ事が言えること、選択の仕方によって、自分や家族の健康、地産地消などにもつながることをまとめた。(T 1、T 2)

- ・今までは価格に注目して選んでいたけど、これからはどんな材料が入っているかや産地を見て選びたい。

○和食でバランスのよい献立を考えていくこと、調理実習をすることなどを知らせた。(T 1)

## 〈授業のまとめ〉

## ア 考察

本授業においては、以下の3つの視点で考察しました。

- 「健康と環境の視点から食に関する知識が身に付いたか」
- 「自らの食生活に課題意識をもつことができたか」
- 「多面的・多角的な視点で思考し判断することができたか」

## ○「健康と環境の視点から食に関する知識が身に付いたか」について

授業形態をTTにし、食品添加物、減塩、遺伝子組み換えなど健康や環境の視点からの専門的な内容は栄養教諭が説明を行いました。教科全般と日々の生活を指導している担任が、児童の課題をその時々には投げ返すことによって、食に関して適宜振り返らせることができました。

授業前後のアンケートを見ると、食品を選択するときに「社会や環境によいものを購入したい」と回答した児童が30名中8名から15名に増え、「原材料に気を付けて購入する」と回答した児童が30名中6名から15名に増えました。このことから、健康と環境の2つの視点から知識を身に付けることができたことがうかがえます。

## ○「自らの食生活に課題意識をもつことができたか」について

児童の実態を調べるための事前アンケートでは、食品を選択するときに、「流行しているから」「新商品で目新しいから」「パッケージが気に入ったから」といった理由で購入する児童が多いということに問題を見いだしました。本時では、児童の問題点に触れる発問などはしませんでした。授業後には、「パッケージや値段だけでなく、原材料や産地などの食品表示を見て購入したい」という児童の感想があったことから、自分の食品の選択の仕方に課題意識をもつことができたことがうかがえます。

## ○「多面的・多角的な視点で思考し判断することができたか」について

児童のワークシートには以下のような記述がありました。

今までは、価格などに注目して、食品を選んでいたけど、これからは、今日学習したことを生かして、どんな材料が入っているかや①本に良い物が入っている食品を選びたいと思います。

資料3 児童のワークシートの記述①

普段は、食料自給率や食品てんか物などの考えたことがなかったけど、この授業をとおして、これから家で買い物をするとき、価格、健康などを考えて、食品を選びたいです。

資料4 児童のワークシートの記述②

これまであまり考えていなかったけど、私は、健康や安全性、価格などに気をつけて、一番お手頃なものを買いたいな、と思います。また、材料の産地なども注目して、日本や地域の農業を応援したいです。場合に依じた視点で買い物しようと思いました。

資料5 児童のワークシートの記述③

前頁資料3、資料4からは、価格だけでなく、健康や原材料の視点も含めて判断することの大切さに気付いていることが分かります。資料5からは、食品選択が自分の生活だけでなく、社会や農業に関わり合っていることに気付いていることが分かります。資料3、4、5のような記述をしていた児童は約80%を超えていたことから、栄養面、環境面、地産地消、経済面等の視点と、自分の家に合うみそを選ぶという視点を重ねることで、より自分事として捉え、食品を選ぶ際の視点が増えたことが分かります。このことから、多面的・多角的な視点で思考し、判断することができるようになっていけると考えます。

## イ 教科間の連携について

参観者からの感想の中に「5年生の社会科で学んだ『食料自給率』などについて振り返る活動を取り入れ、家庭科だけでなく他の教科と連携させることで、学びや思考が深いものになるのだと感じた」というものがありました。同じように、「教科間で連携することが効果的である」といった内容の感想が約40%ありました。教科間の連携は、多面的な見方や考え方を与えるという点で、効果的であると言えます。今回の実践では、栄養教諭がT2として関わることで、専門的な知識を伝えることができました。小学校では、家庭科の学習が始まるのが5年時ですので、それまでは学校給食と関連付けて食育の指導がなされています。そのような点においては、食育の指導を栄養教諭と連携して行うことは、非常に重要であると言えます。